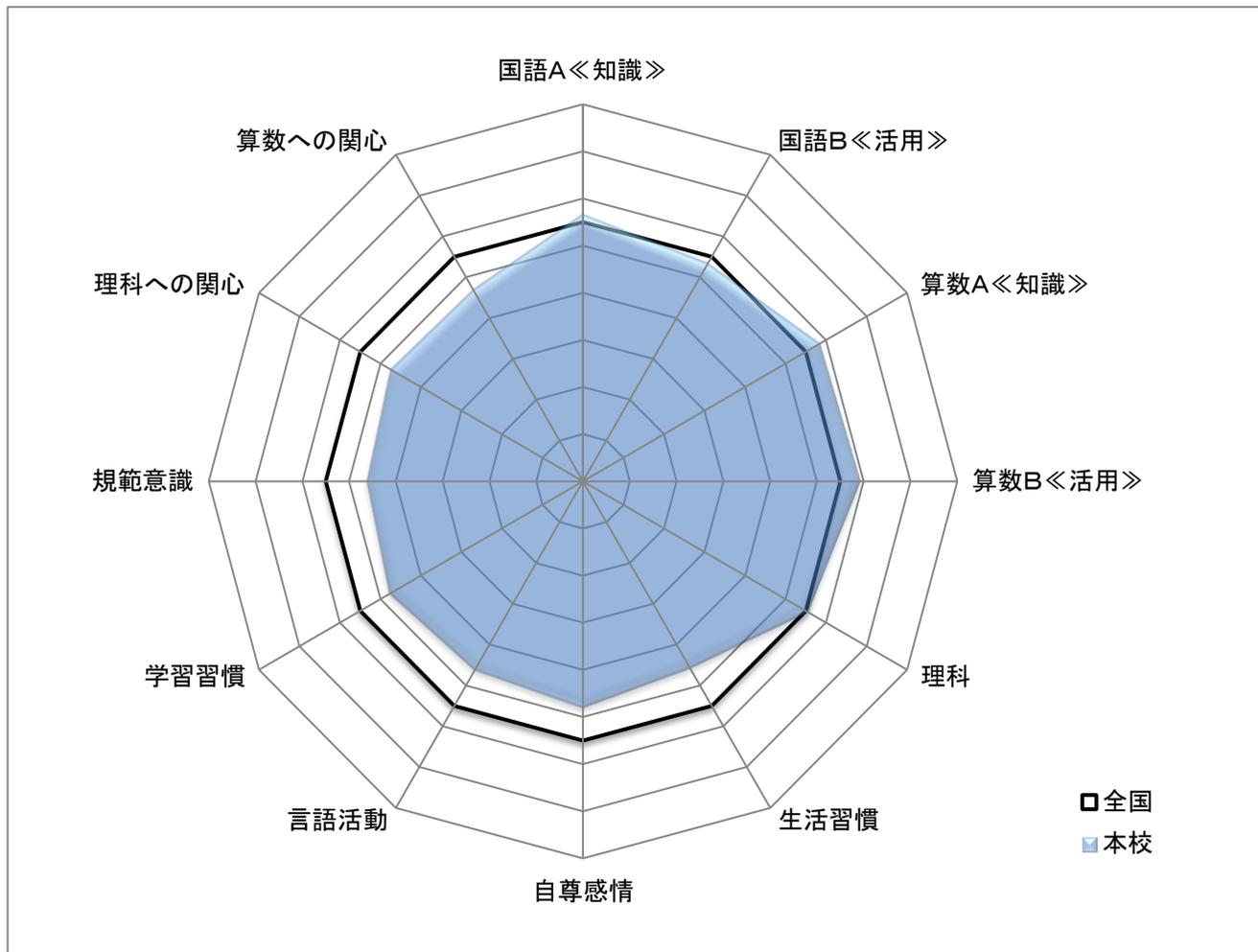


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- 国語
 - 基本的な知識においては全国の平均を上回り、登場人物の心情について情景描写を基に読み取る力が身に付いている。
 - 目的に応じて、複数の本や文章などを比べて読み取る力に課題がある。
- 算数
 - 基礎的な知識においては、空間認知の問いを除いて全国平均を上回ることができた。
 - 示された情報を基に自分の考えを記述するなどの活用問題に対し課題がある。
- 理科
 - エネルギーや物質に関わる問題については、概ね全国の平均を上回ることができた。
 - 人の体のつくりや流れる水のはたらきなど、生命や地球に関する問題については、全国平均をほぼ下回り課題がある。

《授業改善のポイント》

- ・各教科で発展的な問題や課題に取り組めるような発問や教材を工夫する。また、子どもが主体的に課題意識をもって、探求していけるような授業形態を工夫していく。
- ・各教科の関心を高めるために、授業の導入で子どもたちを惹きつけられるよう工夫していく。
- ・各教科の基礎基本的な知識、技能の定着が概ね達成できているが、今後も継続していく。
- ・規範意識を高めるために、教育活動を通して学校でのルールやマナーだけでなく、社会生活のきまりを守れるよう継続して指導していく。
- ・生活習慣のバランスを保つために、家庭と連携し、健康的に学校生活が送れるように指導していく。

《チャートの特徴》

学習面では、どの教科においても概ね全国の平均を上回る結果となった。国語の知識が全国の平均を上回った。算数においては、知識と活用のいずれも約5%上回っていた。一方で国語の活用では約1%下回った。学習意欲では、教科ごとの得意、不得意の差が見られ、その影響が回答結果に表れていた。生活面では、全体的に下回り、全国平均をもとにすると、約2割下回る結果となった。特に生活習慣や規範意識のアンケートの肯定的な回答が他のと比べると低いことが分かった。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・学校や家庭、地域のルールを守れるように、それぞれが連携して養っていく。
- ・家庭学習の習慣化を図る。
- ・早寝早起き、食事をきちんととるなど、基本的な生活習慣を身に付けて毎朝元気に登校できるよう促す。
- ・ふたばっ子カードを活用し、家庭と学校が連携して子どもを育てていく。
- ・ほめほめカードを活用し、子どもの良さを価値づけ自尊感情を高めていく。